

内科・糖尿病内科

担当医師 井口昭久教授

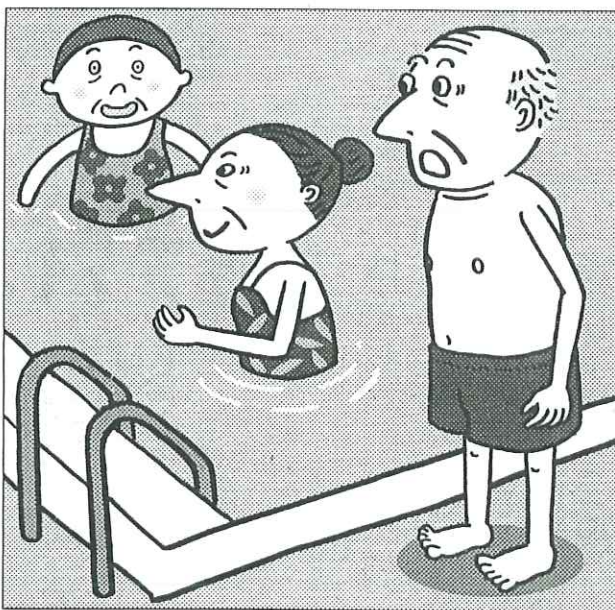
の記事が掲載されました。

10月3日 朝日新聞 朝刊

(毎月1回掲載中)

老年学

老いても脳は進化



The Asahi Shimbun

78歳の男性のYさんは腰椎ようすいに異常があり、足の筋力も衰えてきた。何かにつかまらなると立ち上がれなくなったので、プールの中を歩くりハビリをやっていく。初めてプールへ行った時、平日だというのにカラフルな水着をつけた女性たちが多くいたのに驚いた。彼女たちを近くで見るとYさんと同年輩であった。

18世紀にスウィフトの書いた「ガリバー旅行記」の中に不死の人間の話が出てくる。老化は肉体を

愛知淑徳大学教授
医師

井口 昭久

衰えさせると同時に頭脳にも打撃を与える、とスウィフトは考えていたらしい。不死の国に生まれた人間たちは500歳になっても生きていく。年を取るにつれ、ますます頑固で気難しく、強欲で不機嫌になり、人間の本来の温かい愛情が分からなくなると書いていく。老いることは不幸、死ぬないことほど辛いことはないとしている。

スウィフトの老いに対するこの思い込みは、現在でも根強く残っている。しかし、加齢に関する科学は飛躍的に進歩した。脳の神経細胞は再生されないと考えられていたのだが、現在では年を取っても日々再生されていることが分かってきた。肉体の老化は、精神活動を左右する脳にはそれほど影響を与えないのである。老後でも脳は進化するといわれている。

老年期でも円熟した精神を持つ人は増えてきている。Yさんが見たプールで色鮮やかな水着をつけて泳ぐ女性たちのように。